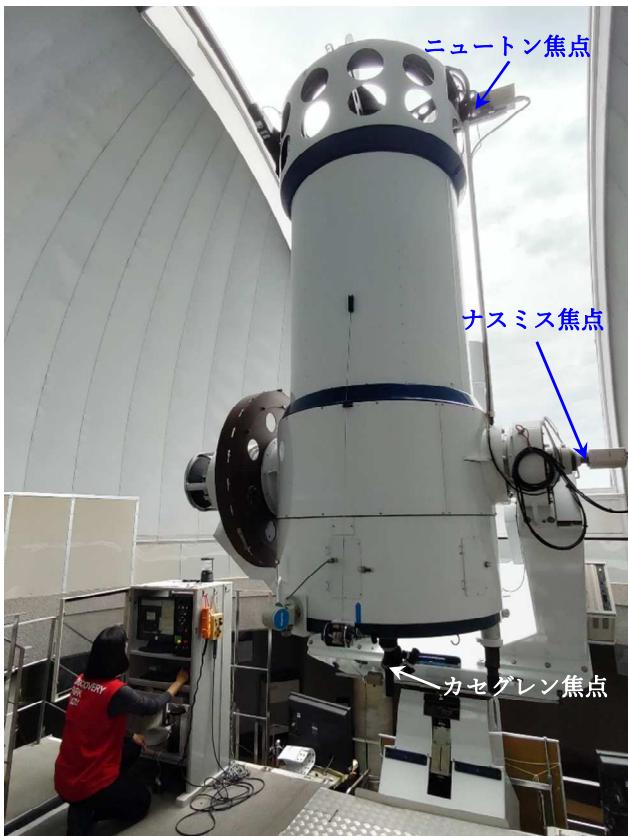


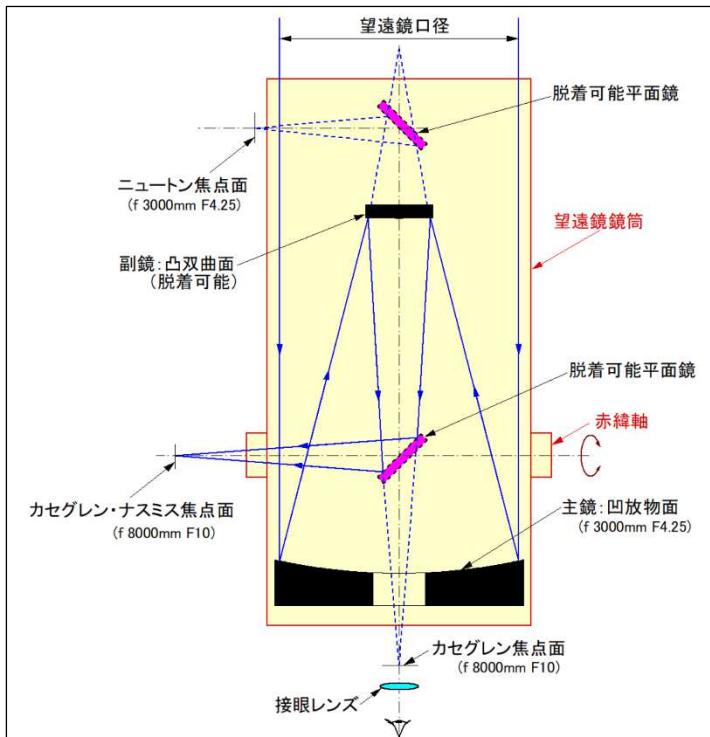
望遠鏡全景

HPによれば、主鏡の製作者は「池谷 薫（静岡県出身）」氏です。（池谷 薫氏は有名な「池谷・閔彗星」の発見者＝1965年9月）

具体的には、下部写真のようになっていて、カメラが取付可能であり、眼視用の接眼レンズも装着されています。（因みに、ニュートン焦点面には浜松ホトニクス（株）社製冷却CCDカメラあり）



「ディスカバリーパーク焼津天文科学館」の最上階には口径80cmの天体望遠鏡があります。これは、静岡県下最大の口径を誇る赤道儀式望遠鏡です。光学系の基本は「カセグレン式反射望遠鏡」ですが、下図に示す通り、ニュートン反射望遠鏡（f 3000mm F4.25\*）や、ナスマス焦点望遠鏡（f 8000mm F10）としても使え、更には、眼視にも使えるカセグレン望遠鏡になっています。（\*印：HPの数値。焦点距離が正しいとすれば「F3.75」？）



光学系の構成図

さて、この望遠鏡の鏡を有名な池谷氏が製作したこともさることながら、架台部を含めた望遠鏡全体は「法月鉄工所（焼津市）」が担当しています。日本の大型望遠鏡（電波望遠鏡を含む）の内、この法月鉄工所が350台あまりを製作しています。（法月惣次郎氏創業）

また、（地球の自転をキャンセルする）天体追尾には、通常「ウォーム・ホイール駆動」が一般的です。しかしながら、歯車駆動の弱点である「バックラッシュ」が避けられない為、本望遠鏡を含めて世界の多くの大型望遠鏡では「フリクション駆動」が採用

されています。



主鏡を覗き込むと、手前に副鏡支持部他が見える.....